

課題番号	応募者名	事業名	評価者の主なコメント	評価者のコメントに対する回答
J1810	三重中央開発株式会社	アスベストの無害化処理技術の開発	<p>今回の目的は達成されたと思われるが、飛散性アスベストのような実際の処理対象物で目的を達成し、かつ、コストも十分に低下させる必要がある。</p>	<p>環境省の大臣認定を活用して現施設の約10倍にスケールアップしたアスベスト無害化処理設備の事業計画を検討しておりますのでスケールアップによりスケールメリットが得られ、コストの低下が見込まれます。事業計画の1/10のスケールでの飛散性アスベストを溶融する実証試験を現在、同施設で計画中であります。</p>
			<p>無害化物の再利用や処分も含めたシステムとしての検討が要求される。</p>	<p>無害化されたガラス固化体の再利用は今後の研究課題であり、アスベスト無害化処理技術のハードの設備が確立すれば技術開発を検討していく予定です。</p>
			<p>溶融処理方法の中での優位性を実証しているとは言えない。</p>	<p>ジオメルトでのアスベストを溶融する優位性は詰込んだアスベスト廃棄物が排ガス処理設備へアスベスト粉塵が飛散していかない点にあり、更に1500℃以上の温度で完全無害できる点も優れていると考えます。</p>
			<p>非飛散性のアスベスト含有物の処理技術としてはコストが問題と考えられる。</p>	<p>現設備での処理コストでは非飛散性アスベスト含有物の埋め立て処分コストには到底及ばないのが現状です。只、この非飛散性アスベストの実証試験を足がかりに、飛散性アスベストの実証試験にもチャレンジする予定であります。実証試験では前回と同様に飛散性アスベストでも溶融無害化の達成に努め、その結果を踏まえてスケールアップした設備で埋め立て処分コストと同等の価格で飛散性アスベストを処理できる事業</p>